

令和4年度 第3回沖縄県がん診療連携協議会 小児・AYA部会 議事要旨

日 時：令和4年12月15日（木） 14：00～17：20

場 所：WEB会議

構 成 員：18名

出 席 者：12名

大城一郁(南部医療センター・こども医療センター血液・腫瘍内科)、伊良波史朗(南部医療センター・こども医療センター放射線科)、比嘉猛(南部医療センター・こども医療センター小児科)、屋 亘 孟(南部医療センター・こども医療センター小児血液・腫瘍内科)、山本真充(南部医療センター・こども医療センター小児専門看護師)、新屋敷誠(森川特別支援学校)、金城敦子(がんの子どもを守る会 沖縄支部)、外間早紀子(沖縄県保健医療部健康長寿課)、浜田聡(琉大病院小児科)、銘苺桂子(琉大病院産婦人科)、森島聡子(琉大病院第二内科)、増田昌人(琉大病院がんセンター)

欠 席：6名

朝倉義崇(中部病院血液・腫瘍内科)、佐久川夏実(南部医療センター・こども医療センターCLS)、崎間恒哉(沖縄県教育庁県立学校教育課)、當山美奈子(琉大病院看護部)、當銘保則(琉大病院整形外科)、城間敏生(沖縄県教育庁保健体育課)、

陪 席 者：2名

有賀 拓郎(琉大病院 診療情報管理センター)

石川 千穂(琉大病院 がんセンター事務)

【報告事項】**1. 令和4年度 第2回小児・AYA部会 議事要旨(8月26日)**

浜田委員より、資料1に基づき説明があり、承認された。

2. 小児・AYA部会 委員一覧

浜田委員より資料2に基づき、委員について報告された。

3. 「妊孕性温存療法」と「がん治療後の生殖医療」WG 委員一覧

銘苺委員より、資料3に基づき、委員について報告された。

4. 移行期医療支援センター(仮称)の設置について

浜田委員より資4に基づき、琉大の移行期医療支援センターの設置について報告された。
組織作りはこれから行うようだった。

5. 妊孕性温存療法について**(1) 妊孕性温存療法研修会について**

資料5-(1)に基づき、銘苺委員が講師をつとめ、県内各施設で開催している妊孕性温存療法研

修会の進捗状況が報告された。開催後の方が、紹介や問合せが増えてきているようだった。

(2) 県の助成について

資料 5-(2)に基づき、前回は7月までの報告だったので、8月～11月の実績が追加され報告された。

(3) 琉大の実績について

資料 5-(3)に基づき、各施設から琉大にきた紹介件数やカウンセリング受診件数、妊孕性温存療法実施件数等の累計が報告された。悪性腫瘍ではないが、抗がん剤を使用する症例についても紹介がある。

(4) がん治療施設について

銘苺委員の研修会を修了した施設が、掲載されており、各施設の電子カルテには、県内共通の説明文書と連携シートが取り込まれている。生殖医療施設として、友愛医療センターが加わっており、卵巣凍結に関しては、琉大のみで対応している。

6. 小児がんの診療体制について

資料 6 に基づき、増田委員より、各施設・各科で対応している疾患について棲み分けした表について、説明された。こちらは、琉大病院がんセンターHP、沖縄県がん診療連携協議会 HP、がんサポートハンドブック、療養場所ガイドの中に掲載予定。

7. アピアランスケアについて

増田委員より、アピアランスケアが必要な方は、色々な悩みを抱えており、単純にかつらがあればよいということではない。外見や就労に関して後ろ向きになってしまわないように、がん相談支援センターにまずは来ていただくことが大切であるとの説明があった。

8. インターネットの環境整備について

(1) がん相談について

(2) 患者サロンについて

(3) ピアサポートについて

上記(1)～(3)に関して、増田委員より、変更があった指定要件に、インターネットを使用してピアサポートやがん相談等を行っていくことが明記されていることが説明され、琉大では、ピアサポートやゆんたく会、がん相談等がオンラインで始まっていることが報告された。また、タブレット端末が病棟に設置されており、ピアサポートで使用していない時は、がん相談や家族との面会に使用することも可能とのこと。

【協議事項】

1. 小児がん長期フォローアップ外来について

増田委員から、現状としては、絶対的な国の方針ではないが、将来目標としては、①例外はあるが、高校一年生を目安に、小児科の手を離れること、②地域のかかりつけ医で対応できるよう

になると良い、という目標のようだと情報提供があり、その方向を向いた上で、どのように進めたら良いか意見が求められ、以下のような提案があった。

- ・治療歴を記載する手帳があり、現状は県外に就職する方を優先で記載している。手一杯のため全件の対応ができていないが、移行支援センターができた際は、事務の方で、電子カルテから記載してもらう方法もあるのではないかと。(浜田委員)
- ・例えば、小児科の看護助手や医局秘書の方で、フォローアップ患者のリストを作り、手帳が全ての患者に渡せるようにするのはどうか(増田委員)
- ・このネットワーク(小児・AYA 部会)で長期フォローアップシステムの計画を作って、公的・民間の比較的取りやすい補助金等、事業費を確保することで実効性につながるのではないかと。まずは小さなことからでも進めてみると、いろいろ対応することが見えてくるのではないかと。(銘苅委員)
- ・マンパワー不足が原因で事業自体が台無しにならないように、予算や事務担当、スムーズな移行のための仕組みづくり等が大事である。(有賀先生)

2. AYA 世代のがんの診療体制について

3. AYA 世代の支援チームの構築について

4. AYA 世代がんサポート研修会の受講について

資料9に基づき、協議事項2~4の必要性に関して、増田委員から説明があった。がん対策推進基本計画に関する資料では、長期フォローアップは小児・AYA部分の目玉になっているようだった。琉大では、なるべく早くAYA世代の支援チームの構築に取り掛かる予定である。南部医療センター・こども医療センターの方では、定期的に移行支援チームで会合を開いている。増田委員より、AYA世代がんサポート研修会が始まっているので、義務ではないが、拠点病院には受講者人数の調査も入るので、各病院で受講して頂ければとの案内もあった。

5. ロジックモデルと次年度の部会活動計画について

当日資料に基づき、増田委員よりロジックモデルの活用について説明があった。これらの施策の中から、具体的に沖縄県の小児・AYA医療では何を行っていくかということで、後日、施策シートに個別の問題点を落とし込み、メール審議を行う。

6. 次回開催日程について

下記の日程で、事務局よりアンケートを行う。

第1候補：2月9日(木) 16:00~17:00

第2候補：2月16日(木) 16:00~17:00